

令和4年度 学校評価書(自己評価)

山形県立鶴岡中央高等学校

校訓	立志・気づき・共生	
-----------	------------------	--

【スクールミッション】

探究する学びと仲間や地域との関わりを通して、学ぶ楽しさを知り、社会で活躍できる学力と豊かな人間性を身に付け、「(立志)夢を夢でおわらせない力、(気づき)いつもだれかを思って考えられる力、(共生)ふるさとのために活動する力」を持った、次代を担い、地域を担う人材を育成します。

1 教育目標 (建学の精神)

- (1) 自ら思考し、創造し、自学自律の態度を身につけた人間を育成する
- (2) 広い視野と洞察力を持ち、豊かな人間性と果敢な実行力を備えた人間を育成する
- (3) 自他を敬愛する精神を培い、地域や社会に奉仕し、貢献できる人間を育成する

評価基準	A 達成
	B 概ね達成
	C やや不十分

2 本年度の重点目標と重点事項 生徒一人ひとりに寄り添い、生徒の可能性を引き出す教育活動を推進する。		自己評価			学校関係者評価
		今年度の成果と課題	評価	来年度への改善点	意見・要望
(1) 確かな学力の定着と学ぶ意欲・態度の育成	① 学習習慣を定着させ、主体的・自立的に学ぶ力を育成する。	①課題を配信したり、学習ツールを活用して学習時間増加につながる指導の工夫をする。	C	・自主的に学ぶ姿勢の醸成と学習時間増加につながる指導の工夫をする。	・自分自身を見限らないことで、昨日より今日、今日より明日の成長を実感させることも大切です、そのためには責めるより褒めるが自信につながります。 ・「学習習慣を定着させ…」の項目については全体評価の中で唯一「C」評価をされていることから、家庭での学習時間が増えなかった原因等を詳細に分析頂き、来年度の改善点である「指導の工夫」等へと確実に近づけていただければ幸いです。 ・何のために勉強するのか、を改めて考えていかなければ、学力の定着や学ぶ意欲や態度は育成されないように思います。大学進学を目指す生徒、専門学校を目指す生徒、就職を目指す生徒、さまざまな多様な生徒がいる中で大学進学の割合を増やす、という目標設定では合致しない生徒が出てきます。生徒一人ひとりに向き合っ対応することが求められていると感じます。 ・C評価であった項目①「学習習慣を定着させ、主体的・自立的に学ぶ力を育成する」について、特に重点的に改善に取り組んでいただきたい。 ・R4年度第3回進路希望調査集計によると、進学希望のうち国立大学希望者が1・2年ともに20名を超えていることは心強い。それに比して過去3ヶ年の進路状況では、国立大学進学希望者は1桁台であり、希望を実現できる学習環境の構築が望まれる。R6年度開校の致道館中学・高校との関わりの中で、既存の中学・高校の在り方が問われるものと考えています。特色ある学校づくりに向け、ともに頑張っていきたいと思います。 ・学習習慣の定着の評価項目中、家庭学習において学習時間の増加につながるならなかった点について、オンライン教材の活用によって、効率的に短時間で理解と知識の習得が進んだのであれば、C評価ではないと考えます。GIGAパソコンの活用については、過渡期にあり、導入効果が見えないため、次回以降、導入による変化なども参考にご報告いただきたい。 ・新しいツールを使い学習を促すのは良かったと思います。自主的な学習へ繋げるのは学習内容やツールではなく本人たちにとってどのように必要なものなのか理解、納得が大切かと思っています。
	② ICT機器の利活用の研究と推進を図り、一人ひとりの学びの充実を図る。	②各年次、教科、課等でICT機器の活用に取り組んでいる。	B	・各教員が実践している取組みについて、共有する機会を設ける。	
	③ 生徒の実態を踏まえた「指導と評価の一体化」が図られた授業や学習活動を実践する。	③評価について混乱なく移行できた。 ④年次ごとの「目指す力」と3年間の見通しが示されたことで、探究型学習の体系化が進んだ。	B	・「観点別評価」に評価方法が変わり、さらなる「指導と評価の一体化」が図られた授業等になるように研修を深める。	
	④ 普通科・総合学科の特色を活かした探究型学習の推進と関係機関・研究機関と連携した学びの充実を図る。	⑤他校で開催する特別支援教育の研修会をオンラインで視聴し、研修を行った。	B	・3年間の学習活動を整理・視覚化し、全職員でビジョンと目的を共有できるようにする。	
	⑤ 特別支援教育への理解を深める研修の実践と組織的な支援体制の推進を図る。		B		
(2) 生徒の資質・能力を最大限に引き出す教育環境の充実	① キャリア教育総合実践プログラムに基づき、計画的・組織的にキャリア教育を実践する。	①コロナ禍で、直前に中止になった職場もあつたが、インターンシップを実施できた。	B	・外部との連携を図る時期や、生徒の調査研究の時間を確保できるように計画を立てる。	・引き出す教育環境の整備とともに、こうありたい自分をイメージし、その実現に努力する苦しいけれど楽しい自分を想定させる必要もあろうかと存じます。 ・教職員全体で情報を共有しながら、意識的に合意形成しともに新しいカリキュラム実施に向けた”元気・本気・笑顔”の学校にしてください。 ・コロナ禍での各種プログラムの実施にあたっては調整に大変なご苦労があったことと想定されます。一方で、実施された修学旅行のようにリアルな体験からこそ得られるものも多いと思いますので、コロナも間もなく次のフェーズに入ることから、ぜひ記載されている外部連携などにも積極的に取り組んでいただければと思います。弊社とも何か一緒に出来るようなことがあれば、お声がけ頂ければ幸いです。 ・中央高校は多様な生徒が集まる高校ですので、①とも共通しますが、生徒の多様な要望に対応できる仕組みの構築が望ましいと思います。大学進学率の向上を第一に置いているように感じられるので、大学への進学だけを指すような一律な教育環境ではなく、生徒の希望に寄り添える環境づくりが必要に思います。 ・本学でもキャリア開発センターを設置し、キャリア教育に力を入れているが、生徒の将来を考えた場合、キャリア教育はやはり重要である。引き続き計画的・組織的にキャリア教育に取り組んでいただきたい。 ・探究学習やシミュレーション関連の取組等を継続的に実施されており、生徒のキャリア教育と地元愛の醸成につながっているものと評価しております。本市においては、若者の県外流出に課題意識を持ち、小学校からのキャリア教育等地元回帰施策を展開しております。引き続き、地域企業やキーマンとの縁をつなぐ取り組みを進めていただくとともに、地元を誇りに思い、多方面で活躍する人材を育成していただきたいと思っています。 ・総合学科発表会に出席させていただき、今年度から普通科の発表もあり、学校全体で発表の場を大切にしている様子うかがえました。自らの課題をもち、他との関わり合いの中で深めていくこと、自分の考えを相手にわかりやすく表現することは、これからの社会人に求められる力であり、中学校でも総合的な学習の中で意識的に取り組んでいきたい内容と捉えています。 ・シミュレーションやバリアフリーマップ等にもみられるような、行政や地元企業等と連携した社会に影響力のある提案が、生徒のモチベーションや創造性につながる活動になると考えます。 ・総合学科発表会への普通科の発表は良かった。来年度からは発表会の名称を考えたほうが良いのでは。 ・コロナ禍においてもできるだけ体験や学習を取り入れていただきありがとうございます。これからも校外との連携により外部の目に生徒たちの活動が触れ協働の活動などであると生徒たちのやりがいになるかと思っています。
	② 「総合的な探究の時間」や「産業社会と人間」を基軸とした学習活動により、キャリア形成を育む。	②③進路指導課と年次が連携し、大学・専門学校見学会、模擬講義・説明会を開催でき、生徒の進路意識の高揚を図ることができた。	B	・系統立てた実施に向けて、計画を見直しつつ、研修を深めていく。	
	③ 多様な進路希望や多様な入試制度、就職試験に対応できるよう、組織的な指導・支援体制の充実を図る。	②行政をはじめ、多くの方に来校いただき学びを得ることができたが、校外活動が少なかった。	B	・新たな成果を継続しつつ、生徒の成果発表の機会として、目的や内容を検討していく。	
	④ 普通科・総合学科の特色ある教育課程編成の評価・検証を行う。	④学科・系列ごとに地域や関係機関と連携し活動を行った。 ④「総合学科発表会」は、普通科の発表も行い、生徒が主体的にかかわることができた。	B		
(3) 自他を尊重する態度と自律的な行動力の育成	① 明るく爽やかな挨拶ができる社会人としてのマナーや規範意識の育成とコミュニケーション力の向上を図る。	①生徒会執行部による朝のあいさつ運動のおかげで、挨拶をする生徒が増えた。	B	・あいさつ運動を継続し、生徒が自分から率先してあいさつができるようにする。	・コミュニケーション能力を高める「技と心」が必要になりますが、この「技と心」をきたえるには「場数を踏む」実践と見聞きする相手を思う優しさが必要なことを体験することであると考えます。 ・コミュニケーションの根幹となるあいさつを遺棄するあいさつ運動が効果を奏していると思われませんが、生徒会の皆様からすると「まだまだ」と思われている部分もあると感じました。コロナ禍でコミュニケーション機会は確実に減少しているため、基本であるあいさつ運動の来年度継続なども注力していただければ存じます。 ・他者からの肯定が、自己肯定感に繋がる高校生が多いように思います。まずは自分はどう思うか、どう感じているか、何がしたいかを話せるような場づくりと、先生やクラスメイトとの関係が作れるように、自分の話をし、他者の話を聞く時間を作ってあげてほしいと思います。 ・あいさつは基本であり、朝のあいさつ運動により挨拶をする生徒が増えた。という状況については評価される。引き続き取り組んでいただきたい。 ・資料からは人間関係やクラス替えでの友人づくりに苦慮するなどの意見もあるようです。コロナ禍による活動機会の減少やネット依存等、コミュニケーション能力の形成が進まなかった世代でありますので、探究学習等のグループ活動を通じて、コミュニケーション能力と協調性を育んでいただいていることを評価します。 ・生徒会執行部代表との懇談の場をいただきありがとうございました。生徒会役員が充実感を持てる活動に期待したいと感じました。特に、生活に大きく関わる「きまり(携帯の取扱いや服装・髪髪等々)改正」に向け、生徒・保護者、教職員の皆が納得感のあるルール作り、作ったものを主体的に守ろうとする活動のあり方を考え守ることにより、自己肯定感や所属感を高めたいと感じました。本校のみならず各中学校でも「時代に合わせてきまりづくり」に生徒会で取組もうとしている学校が多くあるようです。 ・あいさつは大切なことで継続することが重要である。 ・あいさつだけでなく人と関わることの必要性や意味など理解が深まることと助かります。コミュニケーションが大切で様々な場面で重要になってくるので自分本位ではなく他者を理解しようとする心がある本人の持っている力以上の力が得られるように思います。
	② 生徒会活動、学校行事、部活動、ボランティア活動、校外活動への積極的な参加の推進し、社会に貢献できる力の育成を図る。	②学校行事は、制限のある中で生徒会や実行委員会を中心に工夫し開催した。	B	・コロナ禍で制限がある中で活動が続くと思われるが、生徒の活動の場であるので、今後も積極的に参加を推進する。	
	③ 生徒のICT機器の活用力の向上、情報リテラシーの理解など情報教育を推進するため、職員の指導力の向上を図る研修を行う。	②部活動について、途中退部する生徒が目立ち加入率が下がってきた。1月末現在加入率68%(運動部41%、文化部27%)	B	・成人年齢の引き下げに関わる教育を、様々な機会をとらえて継続していく。	
	④ 成人年齢の引き下げに伴う主権者教育や消費者教育等を実践する。	④家庭科の授業で消費者教育を行った。	B		
(4) 健康管理・安全教育の推進と危機管理体制の強化	① 新型コロナウイルス感染予防対策や「新しい生活様式」を踏まえた活動の徹底と学習環境の整備を図る。	①声掛けを行い、マスクの着用や黙食の徹底を図った。徐々に慣れが出てきて放課後に残っている生徒がマスクを外しての活動が見られるようになってきた。	B	・今後の新型コロナウイルス感染症対策を踏まえて、クラスターが起こらないように適切に対応していく。 ・防災訓練等で、防災意識の高揚を図っていく。	・「いのち」の尊厳を保持することにかかわる大事なので、慎重に謙虚にシミュレーションして、断固推進する必要があります。 ・コロナ関連については政府指針等も今後急速に変わっていく中で手探りの対応になる部分もあろうかと思いますが、他校とも情報連携を密にしながら生徒さんへ必要な指導等を行っていただきたいと思います。 ・何が起きるか分からない時代なので、メールやウェブサイトで迅速に情報が伝わるような仕組みの構築が求められているように思います。 ・今後予定されている、新型コロナウイルスにおける感染症法上「2類相当」から「5類」への移行により、感染に対する緩みも想定される。新型コロナウイルス感染予防・拡大防止に引き続き力を入れていただきたい。 ・生徒の健康・安全の確保には教員の健康・安全の確保が不可欠です。超過勤務の縮減等教員の負担が減少するよう、貴校のみならず県全域での教員配置の強化や業務改善に努めていただきますようお願いいたします。 ・2類から5類へ移行になるので、適切な対応を願います。 ・コロナに限らず自らの管理の必要性を学んでほしい。
	② 危機管理体制の整備と周知、及び施設設備の安全点検の充実を図る。	②2度の避難訓練を行い災害時の対応を確認した。毎月安全点検を行った。	B		
(5) 「社会に開かれた教育課程」の実現に向けた取組みの推進	① 学校公開とホームページ等による情報発信の充実を努める。	①コロナ禍の影響で学校行事等で直接来ていただくことはできなかったが、Zoom等で配信したり、ホームページで情報発信に努めた。	B	・契約業者と連携し、スムーズな更新と情報発信に努める。	・特色ある「地域に開かれた鶴岡中央高」の存在をより肯定的にとらえていいのではないのでしょうか。ずいぶん頑張っていると思います。評価が(B)にそろう学校ではなく、ここは(A)だと誇れる特徴のある学校でいいと思います。(3)②、(1)④は(A)でいいのではないのでしょうか。 ・学校公開などの戦略的広報活動は、関係者や地域の理解及び協力を仰ぐにあたって大変重要なものであると理解しております。来年度に記載されているスムーズでタイムリーな情報発信や、教育活動の取り組みや魅力を多くの方々に周知していくことなどについて、積極的に実施して頂ければと思います。 ・地元の企業と協働する時間をなるべく多く取れないでしょうか。探究授業の活用などを通して、高校生が考えていることを地域に伝える、地域で働き暮らす人はどのような人なのかお互い知るのが大切に思います。これだけ地域から若者が外に出ていくのは、若者に選ばれていないことが挙げられます。地域の皆様にも、今の高校生がどう考えているのかを伝えられる良い機会だと思います。今の教育システムは昔と大きく変わっていることも伝えていく必要がありそうです。 ・ツイッターやフェイスブックなどでの情報発信も考えられる。 ・校則については、性の多様性の理解と個性の尊重によって、既存ルールの見直しが進んでいるように見受けられます。一定の規律は必要ですが、髪型や服装で男性らしい姿・女性らしい姿の記載の廃止などが進む中で、教師・保護者ともに時代にあった柔軟な対応が求められていますのでご配慮願います。 ・社会との接点を大切になさっている教育活動の数々に、中学校とは違ったダイナミックさと密接に社会と関わる大切さを学ばせていただいています。社会にアプローチする創造性あふれる活動をこれからも提供・発信いただくようお願いいたします。 ・情報発信は重要なので、選ばれる高校になれるように継続を願います。 ・Zoom配信など整えていただきましたが、それに慣れない周囲がまだまだ多いように感じます。中央高校発信で興味深い内容の企画があれば地域や企業もますます注目するでしょうし、新しい展開があるかと思っています。
	② 地域の中学生や保護者、鶴岡市や関係団体、企業等との連携、協働し、地域に開かれた学校をつくる。	②鶴岡市や庄内総合支庁の協力を得て、企業を訪問したり、講座を開いた。	B	・本校の教育活動の取り組みや魅力を発信し、多くの方々に周知していく。	
	③ スクール・ポリシーを策定する	③県高校教育課のご指導・ご助言をいただき、2月の公表に向けて策定を進めている。	B	・スクール・ポリシーの周知と教育活動に活用する取り組みを推進する。	